

# 職業婦人社、婦人セツルメント、働く婦人の家

## 職業婦人社

働く女性に対する世間の評価が低かった頃、日本各地の働く女性たちは、「職業婦人」として生きる、悲しみや喜び、いらだちを表現する場を求めています。そこで、奥むめおは大正12(1923)年4月20日職業婦人社を設立し、同年6月1日、機関誌『職業婦人』を発行し始めます。(後に『婦人と労働』へと改題、その後さらに『婦人運動』へと改題)また、職業婦人社主催の研究会や講演会も行い、職業婦人にとって身近で切実なテーマを取り上げ、多くの女性の聴衆を集めました。

## 婦人セツルメント

働かなければ食べていけない無産婦人たちとの運動を模索していた奥むめおは職業婦人社の仲間たちと共に、昭和5(1930)年10月1日、東京本所に婦人セツルメントを設立します。託児事業を中心として、妊娠調節相談や洋裁、料理などの講習会も開きました。婦人セツルメントは、昭和19(1944)年本所の子どもたちに疎開命令が出されるまで、担い手や建物を変えながら、貧しい母と子どものための協同保育、協同炊事の間として機能しました。

## 働く婦人の家

職業婦人社に集う多くの働く若い女性たちは、「みな自由に勉強し、遊び交友をあたためる所」としての自分たちの家を持ちたいと考えるようになっていきました。そこで、彼女たちは「働く婦人の家」建設計画を練り、募金活動を展開しました。結果、昭和8(1933)年7月大阪、昭和10(1935)年3月東京牛込、同年9月福井県に「働く婦人の家」が設立されました。働く婦人の家は当時、働く女性に理解の無い社会の中で、若い女性たちが共に励まし合い、学び、楽しむための憩いの場となりました。



東京ガスの料理教室を借りて料理講習(年代不詳)